

居場所の大人にできること

- 子ども食堂篇Ⅶ -

馬渡 徳子

した。

10月20日(日) 無料塾寺子屋えがお・子ども食堂の母体の公益社団法人と社会福祉法人主催「やすらぎの里まつり」が、コロナ禍を経て約800名の参加者で賑わった。

私たちは、①ボランティアによるポップコーンの実演販売、②能登半島地震子どもの放課後支援チーム N-ASCATと金沢大学と富山大学学生チーム N-ASCAT-U、能登半島地震・豪雨支援:出張あそび場「プレイカー」の共催でプレイカーとかえっこバザールを出店

当日は、雨上がりの曇り空で、早朝からの強風でテントの設営が叶わず、おもちゃや絵本が飛んでしまいそうになり、乳幼児の参加もあることから安全面では終日配慮が必要であった。

全国的な取り組みであるかえっこバザールのかえるポイントカードを持参した子どもたちも18名おり、子どもたちは90名、保護者を加えると150名を超える賑わいだった。口コミとInstagramの広報力で、これまでご



縁のなかった方々にも地域の居場所を知っていただくことができたと思う。この企画を通じて、早速翌日より子ども食堂の利用につながった方もいる。



準備は8月から進め、毎週月曜日の子ども食堂の時間帯に、子どもたちと少しずつ企画を詰めて、広報チラシや掲示物、進め方や当日の役割分担、定型ルール+αマイルールなどを決めて作成した。

おもちゃや絵本、新品の文房具は、子ども食堂の仲間たちと私の勤め先のほのみこども園の保育士たちが企画趣旨に賛同くださり寄贈くださった。

子どもたちや保護者、保育士からは「おもちゃの整理の機会になった。」

「おもちゃや絵本を見ながら、思い出話ができた。」「自分で自分の大切にしてきたおもちゃに価値をつけるっていいと思う。」「プレイカーでの遊びや、お手伝い立候補でかえるポイントがつくと、手ぶらで来てもいいというのが良かった」「大人スタッフよりも遊びの上手な子どもが、ゲストの子ども

に伝授したらかえるポイントがつくというマイルールが良かった。いっぱい褒められる子どもの誇らしげな顔を見ると嬉しかった。」「次は、いつやるの？ 年末大掃除の時に子どもと整理をしておきたい。」といった感想もいただいた。

大学生ボランティアによる提起の効果で、ここ2年間のイベントは、子ども主体の運営が貫かれている。

思いもつかないような発想と創造力を観察していると、どう運営するかによって、子どもたちのもつ力を見逃してしまうかもしれないなどと毎度反省している。

被災地巡るプレイカー

その名は「じんべい」

ここにあり

